

安全データシート



1. 化学品及び会社情報

法人名 : 国立研究開発法人産業技術総合研究所
 住所 : 東京都千代田区霞が関 1-3-1
 担当部門 : 計量標準総合センター 計量標準普及センター 標準物質認証管理室
 担当者 : 認証標準物質担当
 電話番号 : 029-861-4059 ファックス番号 : 029-861-4009
 緊急連絡電話番号 : 同上

作成日 : 2010年3月23日
 改正日 : 2020年1月31日
 整理番号 : 5010001

化学品の名称(製品名) : 認証標準物質 NMIJ CRM 5010-a
 ポリエチレングリコールノニルフェニルエーテル
 Poly(ethylene glycol) Nonylphenyl Ether

推奨用途及び使用上の制限 : 本標準物質は、高分子の分子量分布や平均分子量測定において、計測装置の校正、計測の精度管理、計測法の妥当性確認に用いることができる。試験・研究用以外には使用しないこと。
 本標準物質は、標準物質（日本産業規格（JIS）Q0030に定められるもの）である。

2. 危険有害性の要約

GHS分類 : 皮膚腐食性／刺激性 : 区分2
 眼に対する重篤な損傷性／眼刺激性 : 区分2A
 生殖毒性 : 区分2
 特定標的臓器／全身毒性（反復暴露） : 区分2（肝臓、心血管系）
 水生毒性（急性） : 区分1

GHSラベル要素 :



注意喚起語 : 警告
 危険有害性情報 : 皮膚刺激
 強い眼刺激
 生殖能または胎児への悪影響のおそれの疑い
 長期又は反復暴露による臓器の障害のおそれ（肝臓、心血管系）
 水生生物に非常に強い毒性

注意書き : [安全対策]
 すべての安全注意を読み理解するまで取り扱わないこと。
 ガス／ミスト／蒸気／スプレーを吸入しないこと。

保護眼鏡／保護面／保護手袋を着用すること。
 取扱い後はよく手を洗うこと。
 環境への放出を避けること。

[応急措置]

眼に入った場合：水で数分間注意深く洗うこと。次に、コンタクトレンズを着用していて容易に外せる場合は外し、その後も洗浄を続けること。
 眼の刺激が続く場合は医師の診断／手当を受けること。

皮膚に付着した場合：多量の水と石鹼で洗うこと。

気分が悪い時は、医師の診断／手当を受けること。

皮膚刺激が生じた場合、医師の診断／手当を受けること。

汚染された衣服を再使用する場合には洗濯すること。

暴露または暴露の懸念がある場合：医師の診断／手当を受けること。

漏出物を回収すること。

[保管]

遮光し、25℃以下で清浄な場所に保存すること。長期保存の場合は、5℃以下の冷蔵保存を推奨する。

[廃棄]

内容物／容器を国／都道府県／市町村の許可を受けた専門の廃棄物処理業者に委託処理すること。

上記で記載が無い危険有害性は分類対象外または分類できない。

3. 組成及び成分情報

化学物質・混合物の区別	: 単一製品
化学名又は一般名	: ポリエチレングリコールノニルフェニルエーテル
化学式	: $C_9H_{19}-C_6H_4O-(C_2H_4O)_i-H$
分子量	: 特定できない
CAS 番号	: 9016-45-9
含有量	: 99 %
官報公示整理番号(化審法)	: 7-172
官報公示整理番号(安衛法)	: 公表

4. 応急措置

吸入した場合	: 新鮮な空気のある場所に移動させ、呼吸しやすい姿勢で休息させる。症状がある時は医師の診断／手当を受ける。
皮膚に付着した場合	: 多量の水と石鹼で洗う。炎症が生じた場合は医師の診断／手当を受ける。
眼に入った場合	: 水で数分間注意深く洗う。コンタクトレンズを着用していて容易に外せる場合は外し、その後も洗浄を続ける。異常があれば医師の手当を受ける。
飲み込んだ場合	: 水でよく口の中を洗浄し、水または牛乳を飲ませて吐かせる。直ちに医師の手当を受ける。
応急処置をする者の	: 個人用保護具を着用すること。

保護

5. 火災時の措置

消火剤	: 粉末、二酸化炭素、泡、水噴霧、乾燥砂類
火災時の特有危険有害性	: 火災時に刺激性又は有毒なガス（一酸化炭素等）が発生する為、呼吸保護具を着用する。
特有の消火方法	: 火元の燃焼源を断ち、消火剤を用いて消火する。移動可能な容器は速やかに安全な場所に移す。移動不可能な場合には周辺を水噴霧で冷却する。
消火を行う者の保護	: 消火活動は風上から行い、有害なガスの吸入を避ける。空気呼吸器等の保護具を使用する。

6. 漏出時の措置

人体に対する注意事項	: 皮膚、眼および個人の衣服の汚染を防止するため、適切な保護具を着用する。
保護具及び緊急時措置	: 屋内の場合、処理が終わるまで十分に換気を行う。作業の際には適切な保護具を着用し、飛沫等が皮膚に付着したり、ガスを吸入しないようにする。
環境に対する注意事項	: 漏出した製品が河川等に排出され、環境への影響を起こさないように注意する。汚染された排水が適切に処理されずに環境へ排出しないように注意する。
回収、中和	: 乾燥砂、ウエス等に吸収させて密閉できる空容器に回収する。うウエス、雑巾等で完全に拭き取った後、大量の水で洗い流す。
二次災害の防止策	: 漏出した場所の周辺に、ロープを張るなどして関係者以外の立ち入りを禁止する。風上から作業して、風下の人を退避させる。

7. 取扱い及び保管上の注意

取扱い

技術的対策	: 火気厳禁とし、高温物、スパークを避け、強酸化剤との接触を避ける。
局所排気・全体換気	: 屋内作業場における取扱い場所では、局所排気装置を使用する。
安全取扱注意事項	: 容器を転倒させ落下させ衝撃を与え又は引きずる等の粗暴な扱いをしない。 漏れ、溢れ、飛散などしないようにし、みだりに粉塵や蒸気を発生させない。 機器類は防爆構造とし、設備は静電気対策を実施する。 使用後は容器を密閉する。 取扱い後は、手、顔等をよく洗い、うがいをする。 取扱い中に飲食、喫煙をしてはならない。 休憩場所では手袋その他汚染した保護具を持ち込んではない。 取扱い場所には関係者以外の立ち入りを禁止する。 吸い込んだり、目、皮膚及び衣類に触れたりしないように、適切な

保護具を着用する。

保管

- 適切な保管条件 : 遮光し、25℃以下で清浄な場所に保管する。長期保存の場合は5℃以下での冷蔵保存を推奨する。
 強酸化性物質の近くに保管しない。
- 安全な容器包装材料 : ポリプロピレン

※標準物質としての適切な保管条件、使用に関する注意事項については、認証書を参照のこと。

8. 暴露防止及び保護措置

管理濃度 作業環境評価基準

設定されていない

許容濃度

- ・ OSHA PEL : 設定されていない
- ・ ACGIH TLV : 設定されていない
- ・ 日本産業衛生学会 : 設定されていない

設備対策

- ・ 屋内作業場での使用の場合は発生源の密閉化、または局所排気装置を設置する。
- ・ 取扱い場所の近くに安全シャワー、手洗い・洗眼設備を設け、その位置を明瞭に表示する。

保護具

- 呼吸器の保護具 : 有機ガス用防毒マスク
- 手の保護具 : 保護手袋
- 目の保護具 : 保護眼鏡
- 皮膚及び身体の保護具 : 保護衣、保護長靴

衛生対策

産業衛生および安全の基準に基づいて取り扱うこと。

9. 物理的及び化学的性質

- 外観 : 液体
- 色 : 無色
- 臭い : データなし
- pH : データなし
- 融点 : データなし
- 沸点 : データなし
- 引火点 : データなし
- 爆発範囲 : データなし
- 蒸気圧 : データなし
- 相対蒸気密度 (空気 = 1) : データなし
- 比重又は嵩比重 : 1.06 (25℃)
- 溶解度 : 水、エタノール、アセトンに可溶
- n-オクタノール/水分配係数 : データなし
 (log Po/w)

自然発火温度	:	データなし
分解温度	:	データなし
燃焼性	:	データなし

10. 安定性及び反応性

安定性	:	通常条件で安定である。
反応性	:	データなし
危険有害反応性	:	データなし
避けるべき条件	:	燃焼、加熱、日光
混触危険物質	:	データなし
危険有害な分解生成物	:	一酸化炭素など

11. 有害性情報

急性毒性	データなし
皮膚腐食性／刺激性	ウサギを用いた皮膚刺激性試験の記述に、エチレンオキシドの付加モル数2～9の場合の原液が「中等度から強度の刺激性を示した」とある(CERI・NITE 有害性評価書 No. 96(2004))。
眼に対する重篤な損傷性／眼刺激性	ウサギを用いた眼刺激性試験の記述に、エチレンオキシドの付加モル数2～15の場合の原液が「中等度から強度の刺激性を示した」とあることから、「強い刺激性を有する」と考えられる(CERI・NITE 有害性評価書 No. 96(2004))。
生殖細胞変異原性	データなし
発がん性	データなし
生殖毒性	親動物の一般毒性に関する記述はないが、妊娠率や胚数の減少が見られている(CERI・NITE 有害性評価書 No. 96(2004), NITE 初期リスク評価書 No. 96(2005))
特定標的臓器／全身毒性 (反復暴露)	実験動物については、「雌の肝臓の相対重量増加、病理組織学的検査で雌雄の肝細胞の脂肪変化」、「顕微鏡観察で心筋の巣状壊死」(NITE 初期リスク評価書 No. 96(2005))等の記述があることから、肝臓、心血管系を標的臓器とすると考えられた。なお実験動物に対する影響は区分2に相当するガイダンス値の範囲で見られた。

12. 環境影響情報

生態毒性	<ul style="list-style-type: none"> ・甲殻類 (ミシッドシュリンプ) : 48時間 LC50=0.11 mg/L (CERI・NITE有害性評価書(2005)) ・魚類 (ブラウンマス) : 96時間 LC50=1.0 mg/L (CERI・NITE有害性評価書(2005))
分解性・濃縮性	データなし
生体蓄積性	データなし
土壌中への移動性	<ul style="list-style-type: none"> ・データなし

オゾン層への有害性
・データなし

13. 廃棄上の注意

- 残余廃棄物 : 廃棄においては、関連法規ならびに地方自治体の基準に従うこと。
都道府県知事などの許可を受けた産業廃棄物処理業者、もしくは地方公共団体がその処理を行っている場合にはそこに委託して処理する。
廃棄物の処理を委託する場合、処理業者等に危険性、有害性を十分告知の上処理を委託する。
- 汚染容器及び包装 : 空容器を廃棄する場合、内容物を完全に除去した後に処分する。

14. 輸送上の注意

- 国連番号 : 該当なし
国連分類 : -
品名 : -
容器等級 : -
ICAO/IATA : 該当なし
海洋汚染物質 : 該当なし
注意事項 : 運搬に際しては、直射日光を避け、容器に漏れのないことを確かめ、転倒・落下・損傷がないように積み込み、荷崩れの防止を確実にを行う。

15. 適用法令

- ◇消防法
・危険物第4類 第4石油類 危険等級3
- ◇化審法
・第3種監視化学物質 No. 43
- ◇化学物質管理促進法 (PRTR 法)
・第一種指定化学物質 No. 410
- ◇海洋汚染防止法
・施行令別表第1 有害液体物質 Y類同等物質

16. その他の情報

その他

記載内容は現時点で入手できる資料、データに基づいて作成しており、全ての情報を網羅しているわけではありません。また、注意事項は通常の取扱いを対象としたものであって、特殊な取扱いの場合は、用途、用法に適した安全対策を実施の上、ご利用下さい。

記載内容は情報提供を目的としており、取扱い上のいかなる保証をなすものではありません。